

令和 6 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校は明治 40 年に設立され、今年で創立 117 年を迎える工業高校である。35,000 名を超える卒業生は産業界や自治体など様々な分野で活躍し、産業社会の発展に大きく貢献している。
これまで幅広い分野で産業社会を支える人材を輩出してきた本校は、今後も「大阪 No. 1 の工業高校」として経済社会の様々な情勢の変化に対応し、技術者・科学者として必要な力を身につけた人材を育成するとともに、社会の発展に貢献するために引き続き重要な役割を担っている。
これらをふまえ、本校では次の項目をめざす学校像として掲げ、その実現に向けた教育活動を実践するものである。

- 1 Society 5.0 で実現する社会に必要な、国際的な舞台でリーダーとして活躍できる技術者・科学者を育成する。
- 2 全学科から進学できる工業高校として、高大 7 年間を見据えた継続的な学びを行う。
- 3 ICT-Literacy の習得を重点に学科・教科間のネットワークを充実するとともに、全学科の知識・技術を総合的に活用することができる工業高校をめざす。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

- (1)新しい知識・情報・技術があらゆる領域で重要性を増す「知識基盤社会」において、知識の理解の質を高めることで確かな学力を身につけさせるとともに、技術者・科学者として必要な資質・能力を育成する。
ア 「Society5.0」で実現する社会を担うための力、国際社会を生き抜く力の育成に向け、ICT の活用による効果的・効率的な授業を実践することで学びに対する意欲を向上させ、「知識基盤社会」において必要な確かな学力を身につけさせる。
イ すべての教育活動を通じ、課題を発見し解決する力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力を育むことで専門的な知識・技術の定着をはかるとともに、多様な課題に対応するための課題解決能力を育成する。
※学校教育自己診断（教職員）の質問「授業において ICT 機器を活用している」に対する肯定的回答率を令和 8 年度には 90%以上を維持する。
(R4 75% R5 92%)
※学校教育自己診断（生徒）の質問「授業において ICT 機器を活用している」に対する肯定的回答率を令和 8 年度には 90%以上を維持する。
(R4 81% R5 91%)
※学校教育自己診断（生徒）の質問「グループ学習や自ら調べて考える学習、課題を発見し協働して取り組む学習などの授業において、授業内容がよく理解できたか」に対する肯定的回答率を令和 8 年度には 90%以上にする。(R4 82% R5 89%)
- (2)生徒が、基礎的・基本的な知識や技能の習得も含め、学習内容を確実に身につけることができるよう、生徒の興味・関心等に応じた指導方法や指導体制の工夫・改善を行うことにより、個に応じた指導の充実をはかる。
ア 生徒の自己実現に向け、少人数授業や習熟度別授業、グループ学習を展開するとともに、授業内容の改善により理解度、満足度を向上させる。
イ 工業科目で学んだ内容に関連した職業資格や各種検定試験にチャレンジすることはもとより、職業資格を取得する意義、職業との関係、職業資格を制度化している目的について探究する。また、技術者・科学者として国際的な舞台で活躍できるよう、実用英語能力検定などにもチャレンジすることで 4 技能 5 領域にわたる総合的な語学力を習得する。
※学校教育自己診断（生徒）の質問「本校に入学して学力がついたと感じていますか」に対する肯定的回答率を令和 8 年度には 85%以上にする。
(R4 77% R5 79%)
※学校教育自己診断（生徒）の質問「本校の資格取得の対策についてどのように思いますか」に対する肯定的回答率を令和 8 年度には 95%以上にする。(R4 89% R5 89%)
※英検等の受検者のうち CEFR A2 レベル以上の資格取得者を令和 8 年度には 30%以上にする。(R3 29% R4 20% R5 26%)

2 豊かでたくましい人間性のはぐくみ

- (1)学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、たくましく生きる力を育むために必要な資質・能力を身につけることができるよう、基本的生活習慣を確立させ、社会のルールを理解させる。
ア 遅刻や身だしなみ、スマートフォンの使用に関する指導を行い、「時間を守る」「身だしなみを整える」「集団としてのルールを遵守する」ことを通じて道徳心や規範意識を醸成する。
イ 合同 LHR を活用し、交通安全講話・薬物乱用防止啓発講座・消費者被害防止啓発講座を行うことで道徳心・自制心を育み、自他を大切にする心とマナーを守る態度を育てる。
※遅刻が常態化する生徒（年間遅刻 10 回以上）を令和 8 年度には 15 名以下とする。(R3 24 名 R4 30 名 R5 25 名)
※交通安全講話・薬物乱用防止啓発講座・消費者被害防止啓発講座の事後アンケートによる肯定的回答を、令和 8 年度には全て 95%以上にする。
(R4 交通安全講話 91% 薬物乱用防止啓発講座 88% 消費者被害防止啓発講座 95% R5 93% 91% 95%)
- (2)他者を尊重し思いやる心、適切な人間関係の構築に向けたコミュニケーション能力、多様性を受け入れる力などを育むための人権教育を推進し、人権尊重のための知識や態度を養う。
ア 自分自身はもとより、人との関わり、集団や社会との関わりに関する道徳的価値についての理解を基に、様々な体験や思索の機会等を通して人としての在り方生き方について考えを深めさせる。
イ 情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度を育てるため、自他の権利を尊重し情報社会での行動に責任をもつことや、犯罪被害を含む危険の回避など、情報を正しく安全に利用するための情報モラル教育を徹底し、技術者・科学者としての倫理を醸成する。
※学校教育自己診断（生徒）の質問「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」に対する肯定的回答率を令和 8 年度には 95%以上にする。(R4 89% R5 92%)
※学校教育自己診断（生徒）の質問「情報機器の取り扱いに際し、危険を回避し責任ある行動をとることができるか」に対する肯定的回答率を令和 8 年度まで 95%を維持する。(R4 95% R5 95%)
- (3)卒業後の社会的・職業的自立や自分らしい生き方を実現する中で社会貢献できるよう、キャリア教育の充実をはかるとともに、心身の健康や体力を保持増進するための力を育成する。
ア 企業や大学の見学をはじめ、外部講師による講演会・説明会（進学・企業就職・公務員）などを通じ、進路に関する具体的な情報を知る機会を増やすことで生徒の進路意識を高める。
イ 実力テストの結果や過去の大学入試データなどに基づき、各教科と連携した定期的な進学補講を行う。

- ウ キャリアパスポートノートを作成させることで、自己のキャリア形成はもとより Society5.0・SDGs に関する内容にも触れ、情報化やグローバル化、地球環境などに対する意識付けをはかる。
- エ 生徒会活動を活性化し、部活動を推進することによって生徒一人ひとりの自主性・社会性を育む。
- オ 生涯にわたって自分らしい生活を実現するために、心身の健康や体力の保持増進をはかる。
- ※令和 8 年度まで就職内定率 100%を維持する。(R3 100% R4 100% R5 100%)
- ※大阪工業大学の専門高校特別推薦合格者を令和 8 年度まで 80%を維持する。(R3 84% R4 84% R5 82%)
- ※部活動加入率を令和 8 年度には 75%以上とする。(R3 70% R4 72% R5 72%)

3 専門的な知識・技術の定着

- (1)各種競技会への出場をはじめ、就業体験活動などを通して自ら学ぶ意欲を高めるとともに、様々な職業や年代などつながりを持ちながら協働して課題の解決に取り組む姿勢を養う。
- (2)興味関心の増加をはじめ、将来に向け最も重要である進路決定につなげるため、社会において必要な専門資格試験や検定に積極的にチャレンジし、合格率を高めるとともに、多くの生徒にジュニアマイスター顕彰を受彰させる。
- ※学校教育自己診断（生徒）の質問「本校の資格取得の対策についてどのように思うか」に対する肯定的回答率を令和 8 年度には 95%以上にする。(R4 89% R5 89%)
- ※ジュニアマイスター顕彰受彰者を令和 8 年度まで毎年 60 名以上輩出する。(R3 63 名 R4 96 名 R5 75 名)

4 学校の組織力向上

- (1)全教職員が一丸となって組織的に本校の魅力について対外的に発信し、志願者増に繋げる。
- (2)総合募集への移行を見据え、将来計画委員会等において本校の更なる魅力化について検討を進める。
- (3)PTA、同窓会や各種団体などとの連携による教育コミュニティを構築し、教員個々の教師としての力量を高めるとともに、学校力向上に向けた環境整備をはかる。
- (4)長時間勤務の縮減に向けた取組みや在校等時間管理・健康管理を行うとともに、教職員一人ひとりの意識改革を推進するなど、「働き方改革」に取り組む。
- ※入学者選抜における志願倍率を、毎年 1 倍以上確保する。(R4 選抜 0.92 R5 選抜 0.86 R6 選抜 0.98)
- ※学校教育自己診断（生徒）の質問「本校に入学して良かったと思うか」に対する肯定的回答率を令和 8 年度には 90%以上にする。(R4 82% R5 85%)
- ※本校の施設・設備を活用した教員のための技術講習会を、毎年各学科 1 回以上開催する。
- ※在校等時間管理に努め、時間外在校時間月平均 80 時間以上の教職員を、令和 8 年度には 10%以下にする。(R4 13.1% R5 3.0%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 6 年 12 月実施分〕	学校運営協議会からの意見
昨年度実施した学校教育自己診断アンケートの結果と今年度の結果を比較し分析する。各質問での「よくあてはまる」「ややあてはまる」の回答の合計結果の今年度%と昨年度〔%〕は以下のとおりである。 【生徒】 「学校へ行くのが楽しい」 86%〔88%〕 「学校生活についての先生の指導は納得できる」 81%〔80%〕 「将来の進路や生き方について考える機会がある」 94%〔96%〕 「先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」 90%〔87%〕 「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談することができる先生がいる」 73%〔70%〕 「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」 91%〔92%〕 「体育祭（文化祭・修学旅行）は楽しく行えるよう工夫されている」 体育祭 91%〔92%〕 文化祭 92%〔91%〕 修学旅行 87%〔91%〕 「学校は生徒 1 人 1 台端末を効果的に活用している」 87%〔88%〕 【保護者】 「学校に行くのを楽しみにしている」 88%〔89%〕 「授業がわかりやすく楽しいと言っている」 73%〔75%〕 「学校の生徒指導の方針に共感できる」 89%〔85%〕 「将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」 94%〔95%〕 「いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」 88%〔82%〕 「子どもの生命を大切にする心や社会ルールを守る態度を養おうとしている」 94%〔93%〕 「教育情報について、提供の努力をしている」 94%〔94%〕 「この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある」 86%〔87%〕 【教職員】 「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」 97%〔93%〕 「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」 85%〔73%〕 「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」 79%〔82%〕 「生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている」 95%〔93%〕 「いじめ（疑いを含む）が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができている」 89%〔92%〕 「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる」 94%〔84%〕	第 1 回（6 月 7 日） ○令和 6 年度学校経営計画及び学校評価（案） ・全委員の賛成を得られた。 ○スクールポリシーについて ○令和 6 年度年間行事予定について ○令和 5 年度進路状況について ○大阪府母校応援ふるさと納税制度について 【質疑応答】 ・生徒のカウンセリングについて個人情報も多くあると思うが、どのように管理しているのか。 →「職員会議では会議資料として共有している。日常的にはリスト化してセキュリティモードにて管理しており、情報管理の徹底を図っている。」 ・海外からの学校視察を積極的に受け入れるとのことだが、昨年度の実績は。 →「韓国の漢陽工業高校は昨年度来校してその後も計画的に交流を進め、友好協定を結ぶ予定。それ以外にも韓国から 2 校の訪問があった。機が熟せば我々が訪問することも含めて姉妹校提携を結ぶことも十分あり得る。」 ・工業高校として資格取得をさらに充実させてもらいたい。 →「今年も多く資格試験を受験する。さらに各科で資格試験での合格をめざして多くの補講が予定されている。今年も多く資格取得にチャレンジしてもらいたい。特に第三種電気主任技術者の試験には 1 年生から受験する予定。これも総合募集を行っている工業高校だからこそ取り組みだと考えている。」 第 2 回（11 月 15 日） ○令和 6 年度学校経営計画及び学校評価（中間評価） ・全委員の承認を得られた。 ○スクールポリシーについて ○令和 6 年度現在の進路状況について 【質疑応答】 ・韓国の高校との交流はその後どうなっているのか。 →「漢陽工業高校とは 5 月からオンラインで生徒間の交流を行っている。9 月には友好協定を締結した。その他に韓国の 2 つの工業高校が本校を訪れた。」 ・1 人 1 台端末を生徒は所有しているが、あまり持って帰ってこないなど十分活用できていないのではないかと。 →「学科によっても違うが一部の課題は端末を使っている。教科の特性もありすべてのレポートを端末で対応するというのは難しい面もある。市立高校が府に移管される以前から府立高校ではもっと早く端末を導入している。旧市立は導入が遅れたのが事実であるが、さらなる活用を考えて取り組んでいきたい。 ・在校生が 880 名から現在 870 名になったと報告があった。定員割れをした科は成績が振るわず転退学する生徒が多いのではないかと。 →「そういうことはない。勉学につまずいても教員がしっかり対応するのが都島工業。学業よりも生活自体が昼の学校にあっていないせいもいる。」

府立都島工業高等学校

「学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善を行っている」 97%〔82%〕 「教育活動に必要な情報について、生徒・保護者や地域への周知に努めている」 97%〔92%〕 今年度のアンケート結果について、生徒・保護者の評価はほとんどの質問で昨年同様の評価になった。高い評価になっているのは本校の教育活動に対し教職員が昨年度の結果を踏まえ今年度の教育活動を改善し実践したことに対する肯定的な評価であると考える。 生徒では「先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の評価が微増ながら上昇しており、昨年度より設置した教育相談体制が定着し、機能していることに対する評価と考える。「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談することができる先生がいる」が73%と昨年より3ポイント上昇したものの、さらに生徒に寄り添った指導が必要であると考える。 保護者では「授業がわかりやすく楽しいと言っている」の評価が73%と昨年より2ポイント下がった。教員はさらにわかりやすい授業を心がけ、実践する必要があると考える。「学校に行くのを楽しみにしている」88%、「学校の生徒指導の方針に共感できる」89%となっており学校の教育活動に概ね理解いただいていると思われるが、より一層の充実を図っていきたい。 教職員では多くの質問で昨年度より評価が微増した。なかでも「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」は12ポイント、「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる」は10ポイント、「学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善を行っている」は15ポイント増加している。来年度はポイントをより上昇することを目標に教職員の連携を密にして教育活動を行っていききたい。	・進路の割合は今まで通りか。就職は引く手あまたの状況だと思うがそれでも進学する生徒が多いのはなぜか。 →「今まで通りの割合である。今年は進学就職が50%ずつ。就職のうち60%が一般就職、40%が公務員になっている。保護者の進学意識が高く、本校は進学において国公立もいわゆる関関同立も狙えるので進学志向はなお高くなっている。」 ・課題を抱える生徒の情報共有を教員間や学科内でどのように行っているのか。 →「昨年から定期的に「生徒支援委員会」を開き情報を共有している。」 第3回（3月21日） ○令和6年度学校経営計画及び学校評価 ・全委員の賛成を得られた。 ○令和7年度学校経営計画及び学校評価(案) ・内容の確認を全委員で行った。 ○現在の進路状況について 【質疑応答】 ・危険物乙種4類の結果はどうだったのか。 →合格率は34%であり、59名が受験して20名が合格した。 ・コンピューターのスキルを十分に獲得して卒業したとはいえない状況だが取り組みはどうなっているのか。 →資格の合格をテーマに日々の教育活動にコンピューターの活用にも取り組んでいる。 ・遅刻者の生徒は継続しているのか。なかなか登校できない生徒はいるのか。 →遅刻の数は減少している。一定の回数を超えた生徒には丁寧に指導している。遅刻を減らすだけではなく学校に興味が出るように工夫している。 ・登校したら手厚く対応してもらっているが、欠席者にリモート授業等は実施可能なのか。 →いろいろな条件はあるがリモート授業や遠隔授業の制度を作り4月から本格的に実施していく。 ・中学校等への広報活動は実施しているのか。 →ほぼ全ての区の学校説明会に参加するとともに、体験授業も複数回実施している。
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R5年度値〕	自己評価
1 確かな学力の育成	(1) ア ICTの活用による効果的・効率的な授業を実践し、学びに対する意欲・学力を向上させる	(1) ア 全ての授業において1人1台端末を積極的に活用するとともにリーディング GIGA ハイスクール研究校に整備されたプロジェクトや電子黒板などの設備を効果的に活用する。座学においては視覚的アプローチ等を積極的に行い、実験や実習においては1人1台端末を活用した統計処理や動画検証を行うなど、ICTの活用で教育効果を高める。また、新たに導入される VR ソフトを積極的に実習で活用する。	(1) ア・全ての授業において、1人1台端末等を積極的に活用し、教職員アンケートにおける「授業で ICT 機器を活用している」との回答 85%以上を維持する〔92%〕	(1) ア・リーディング GIGA ハイスクール研究校として新たな設備の整備から2年めになり、様々な教育活動の中で効果的な活用の幅が広がりつつある
	イ 課題を発見し解決する力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力をはぐくむことで専門的な知識・技術の定着をはかる	イ 工業技術基礎・実習・課題研究をとおして PBL を実践する。これにより発見した課題について、解決策を見出すためのディスカッションを行う過程でヒントを与え、生徒同士で議論を深めさせる。そうすることで思考力・判断力・表現力を養うとともに、研究の成果をまとめ、発表することでプレゼンテーション力を向上させる	・また、授業において ICT 機器を活用している時間を、授業時間の 30%以上とすることを目標とし、生徒アンケートにおける「授業で ICT 機器を活用している」との回答 85%以上を維持する〔88%〕	・教職員アンケートの「授業において ICT 機器（タブレット端末、プロジェクト、実習パソコンなど）を活用している」の質問に対し肯定的な回答は 97%であった (◎)
	(2) ア 習熟度別学習・グループ学習を展開し、積極的かつ協働的に学ぶことを通じて理解度、満足度を向上させる	(2) ア 各教科において「主体的・対話的で深い学び」を実現するため、問題を提起し、グループ学習を中心としたアクティブ・ラーニングを実践することで互いに教え合う雰囲気を醸成する。それらを通じて積極的に学びに向かう態度を育成し、授業の理解度、満足度を向上させる	イ 学年・学科ごとに PBL 発表会を開催し、研究成果を共有する。3年生の課題研究発表会では1・2年生が見学する機会を設け、次年度以降に取り組む自身の研究内容についてイメージをもたせる。また、1・2年生が回答するアンケートにおいて、「3年生の研究内容にかかる評価」を 80 点以上とする〔83 点〕	・生徒アンケートの「学校は生徒1人1台端末を効果的に活用している」の質問に対し肯定的な回答は 92%であった (○)
	イ 職業資格や各種検定試験にチャレンジするとともに、職業資格を制度化し	イ PBL 学習を通じて職業観を高め、その実現に必要な知識・技術や資格との関連について調べ学習を行う。その上で、めざす資格を取得	イ・また、授業において ICT 機器を活用している時間を、授業時間の 30%以上とすることを目標とし、生徒アンケートにおける「授業で ICT 機器を活用している」との回答 85%以上を維持する〔88%〕	イ 理数工学科を除き、3年生の課題研究発表会を1月に実施した。5学科の2年生へのアンケート「3年生の研究内容にかかる評価」の回答の平均結果は82点であった (○)
			ア・生徒アンケートにおいて、「対話を重視した授業内容であり、よく理解できた」「理解できた」とする回答を 85%以上とする〔80%〕	ア・「対話を重視した授業内容であり、よく理解できた」「理解できた」の回答は 81% (△)
			・保護者アンケートにおいて、「子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている」に対する肯定的回答を 80%以上とする〔75%〕	・「子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている」の肯定的回答は 73% (△)
	イ 職業資格や各種検定試験にチャレンジするとともに、職業資格を制度化し	イ PBL 学習を通じて職業観を高め、その実現に必要な知識・技術や資格との関連について調べ学習を行う。その上で、めざす資格を取得	イ・第三種電気主任技術者3名以上の合格者を輩出する〔4名(上期)〕	イ・第三種電気主任技術者（上期）2名合格 (○)
			・測量士補 20 名以上の合格者を輩出する	・測量士補 11 名合格 (△)

府立都島工業高等学校

	ている目的について探究する	するための目的を明確化させるとともに、自己のキャリアイメージを具体化し、資格取得に向けた強い志を養う。その結果、高度な資格にもチャレンジすることでめざす職種、めざす学部を意識した進路選択を実現する。 また、知識・技能審査の一つである実用英語技能検定等の資格取得を奨励し、対策講習の実施を通して合格者を増加させる	〔17名〕 ・進学において国公立大学、工業高等専門学校、私立大学（関関同立・産近甲龍）への進学率を30%以上とする 〔24%〕 ・英検等の受検者のうちCEFR A2レベル以上の資格取得者を25%以上にする 〔26%〕	・28% 計42名/進学予定者149名 国公立大学6名 高等専門学校7名 関関同立11名 産近甲龍18名（△） ・全体の33%がCEFR A2レベルに相当している（◎）
2 豊かでたくましい人間性のはぐくみ	（1） ア 遅刻や身だしなみ、スマートフォンの使用に関する指導を行うことで道徳心や規範意識を醸成する	（1） ア 登校時の遅刻指導や身だしなみ指導、スマートフォンの校内使用規定に関する指導を行い、時間を守る、身だしなみを整えるなど、集団でのルールを遵守することの意義や必要性について繰り返し指導する。そうすることで社会の中で協働し、力強く生き抜くための基礎となる道徳心や規範意識を醸成する	（1） ア 年間遅刻が10回となる前段階から親身になって対話を行うなど、粘り強く繰り返し指導することにより、遅刻等が常態化する生徒を20名以下に減少させる 〔遅刻10回以上25名〕	（1） ア 今年度は遅刻8回した生徒について指導を行い、結果10回を越えた生徒は18名であった。人数は昨年度と大きく変わらないが10回を越えている生徒も指導後は遅刻の頻度が下がっており、一定の効果はあったと考えられ、引き続き粘り強く指導を行う。（○）
	イ 合同LHRを活用し、自他を大切にすることとマナーを守る態度を育む	イ 合同LHRを活用して交通安全講話・薬物乱用防止啓発講話・消費者被害防止啓発講話を行うことで道徳心・自制心をはぐくみ、自他を大切にすることとマナーを守る態度を育てる	イ 各種講演の内容を充実させることにより、講演会後のアンケートにおいて、講演内容を十分理解し、「自身はもとより、自他の健康や安心安全について改めて考えるよい機会になった」との肯定的な回答が85%以上を維持する 〔91%〕	イ 前期に各学年において交通安全講話を行った結果、肯定的な意見が3年92%・2年94%・1年93%であった。生徒の興味関心を引く話題を講演内容に織り込んでもらうために事前に講師と念入りに打ち合わせを行った結果であると考え。 薬物乱用啓発講座（3年）においては肯定的な意見が92%であった。消費者被害防止啓発講座（1年）においては肯定的な意見が92%であった。（○）
	（2） ア 様々な体験や思索の機会等を通し、人としての在り方生き方について考えを深めさせる	（2） ア 全ての教育活動をととして人権教育を推進することはもとより、学年ごとにテーマを設定した人権学習会、外部講師を招聘した人権講演会を開催し、人としての在り方生き方について考えさせる	（2） ア 学年別学習会、外部講師による講演会後のアンケートにおいて「人権に関する考えがより深まった」という回答が95%以上を維持する 〔95%〕	（2） ア 人権講話 拉致問題（1年生）・部落問題（2年生）についての学習後のアンケートにおいて「人権について考えることができた」という回答が各98%を超えた。（○）
	イ 様々な情報を正しく安全に利用するための知識・スキルの習得に向け、情報モラル教育を徹底する	イ 成年年齢の引き下げに伴う消費者責任をはじめ、政治や社会への積極的な参画に向け、関係教科・HRでの指導、外部講師による情報モラル講演会を実施し、情報モラルの向上をはかる	イ 生徒アンケートにおいて「情報機器の取り扱いに際し、危険を回避し責任ある行動をとることができるか」との質問に対し、「できる」との回答が90%以上を維持する 〔95%〕	イ 「情報機器の取り扱いに際し、危険を回避し責任ある行動をとることができるか」の「できる」との回答は94%であった（○）
	（3） ア 進路に関する具体的な情報を知る機会を増やすことで生徒の進路意識を高める	（3） ア・公共職業安定所や大学・専門学校と連携し、各学年を対象にキャリア教育に関する講演会・説明会を開催する ・講演会等を活用することで早期の段階から進路に関する意識を高めさせ、就職希望者の内定率を高い水準で維持する	（3） ア・進路に関する講演会・説明会を年3回以上行う 〔1学年1回、2学年1回、3学年1回〕 ・就職内定率を100%にすることはもちろん、一次内定率が90%以上を維持する 〔就職内定率100%、一次内定率89.6%〕	（3） ア 1年生 進学関係 2回 就職関係 3回 2年生 進学関係 2回 就職関係 3回 3年生 進学関係 4回 就職関係 3回（◎） ・就職内定率100%、一次内定率96%（◎）
	イ 進学希望者に対して定期的な進学補講を行うことにより、進学率を向上させる	イ・高専編入学希望者一人ひとりに応じた学習計画を立案し、数学や英語などの教科と連携し、編入学試験対策補講を実施する ・進学補習を通じて例年50名以上が進学する大阪工業大学の過去問に取組み、合格者数を増加させる	イ・特色ある進路選択の一つである工業高等専門学校への編入学試験合格者10名以上、合格率70%以上を維持する 〔10名 77%〕 ・大阪工業大学の合格者50名以上を維持するとともに、同大学の専門高校特別推薦入試において、80%以上の合格率を維持する	イ・工業高等専門学校4年次編入試験 7名合格 / 4年次編入希望者8名 88% 大阪公立大高専 4名 奈良高専 1名 近大高専 2名（○） ・大阪工業大学合格者 49名 専門高校特別推薦入試 13名/19名（68%） 近年、近畿大学（農学部・生物理工学部）の専門高校特別推薦入試の受験生が増加して

府立都島工業高等学校

2 豊か でた くま しい 人間 性の はぐ くみ				
	ウ	ウ	ウ	ウ
	エ	エ	エ	エ
	オ	オ	オ	オ
	カ	カ	カ	カ

府立都島工業高等学校

3 専門的な知識・技術の定着	(1) 各種競技会への出場をはじめ、就業体験活動などを通して様々な職業や年代などつながりを持ちながら協働して課題の解決に取り組む姿勢を養う	(1) ・「レスキューロボットコンテスト」に参加し、災害救助に関する取り組みを通じて技術を学ぶだけでなく、協同し、災害に強い社会を創生するという共通課題の解決をめざす ・建築設計競技にチャレンジすることで専門的知識を向上させるとともに、コンペで認められるための資料づくり・プレゼンテーション技術の向上をはかる ・ものづくりコンテスト（木材加工部門）にチャレンジし、現在の建築技術をはじめ、伝統工法による技術・技能を継承する ・「ものづくりコンテスト（測量部門）」にチャレンジし、外業とデータ処理を通じて測量スキルを向上させるとともに、国家資格である測量士補試験に合格し、技術系公務員としてのキャリアにつなげる ・「コンクリートカヌー競技大会」「橋梁模型コンテスト」などものづくり系競技大会に出場し、制作過程の学びを通して専門的技能を習得させる ・工業6学科ごとの先輩講座やOB 進路懇談会を開催し、技術者としての在り方や進路選択の方法について学ばせる	(1) ・レスキューロボットコンテスト本選出場〔本選未出場〕 ・建築設計競技入賞〔3名入選〕 ・ものづくりコンテスト（木材加工部門）近畿大会出場〔近畿大会2名出場〕 ・ものづくりコンテスト（測量部門）入賞〔2位〕 ・コンクリートカヌー競技大会入賞〔製作の部1位アイディアの部1位 総合の部1位〕 ・棟梁模型コンテスト入賞〔入賞せず〕 ・各学科で先輩講座を1回以上開催する。受講後にグループディスカッションを行い、技術者・科学者としてのあり方について考えさせ、それに関するレポートを提出させる〔各学科1回実施〕	(1) ・レスキューロボットコンテスト予選敗退（△） ・大阪府公共建築コンクールに2名 高校生けんちくコンテストに1名 入選した（○） ・ものづくりコンテスト（木材加工部門）は大阪大会で上位入賞し、近畿大会に2名出場し、8,9位であった。（○） ・ものづくりコンテスト（測量部門）7位（○） ・製作の部2位、アイディアの部3位 競漕の部1位、総合の部1位 （◎） ・3橋出品 入賞せず （△） ・6学科中5学科で1回以上実施した（○） 機械科：5月、2月に実施 機械電気科：5月に実施 建築科：2,3年6月、1年は10月に実施 都市工学科：1年11月、2年6月 3年12月に実施 電気電子工学科：3年6月、2年11月に実施 理数工学科：実施せず
	(2) 各学科で専門資格試験にチャレンジし、合格率を高めるとともに職業と資格の関連を理解させ、明確な進路意識を確立する	(2) - 各学科で以下の資格試験に取組み、学ぶ意識の向上につなげるとともに、ジュニアマイスター顕彰受彰者を60名以上輩出する ・技能検定機械加工普通旋盤作業3級 ・技能検定機械検査機械検査作業3級 ・機械保全技能検定機械系保全作業3級 ・機械製図検定 ・2級建築施工管理技士補 ・建築大工技能士 ・建築CAD検定 ・測量士補 ・2級土木施工管理技士補 ・第三種電気主任技術者 ・第一種電気工事士 ・第二種電気工事士 ・基本情報技術者 ・ITパスポート ・危険物取扱者（乙種第4類）	(2) 各資格検定等の合格率を次のとおりとする ・ジュニアマイスター顕彰 計60名以上〔75名〕 ・普通旋盤作業3級 50%以上〔100%〕 ・機械検査作業3級 70%以上〔90%〕 ・機械保全技能検定3級 70%以上〔100%〕 ・機械製図検定 70%以上〔46%〕 ・2級建築施工管理技士補 40%以上〔34%〕 ・建築大工技能士3級 80%以上〔100%〕 ・建築大工技能士2級 2名以上〔3名〕 ・建築CAD検定3級 60%以上〔100%〕 ・建築CAD検定2級 50%以上〔43%〕 ・測量士補 25%以上〔20%〕 ・2級土木施工管理技士補 85%以上〔40%〕 ・第三種電気主任技術者 3名以上〔4名、全国高校生合格者ランキング第3位〕 ・第一種電気工事士 60%以上〔79%〕 ・第二種電気工事士 70%以上〔66%〕 ・基本情報技術者 3名以上〔0名〕 ・ITパスポート 15名以上〔9名〕 ・危険物乙種第4類 25%以上〔39%〕	(2) ・ジュニアマイスター顕彰 計72名（◎） - ゴールド39名 シルバー25名 - ブロンズ8名 ・普通旋盤作業3級 100%（◎） 4名受験4名合格 ・機械検査作業3級 71%（○） 35名受験25名合格 ・機械保全技能検定3級 100%（◎） 7名受験7名合格 ・機械製図検定 46%（△） 48名受験22名合格 ・2級建築施工管理技士補 45%（◎） 33名受験15名合格 ・建築大工技能士3級 100%（◎） 2名受験2名合格 ・建築大工技能士2級 3名（○） 6名受験3名合格 ・建築CAD検定3級 81%（◎） 21名受験17名合格 ・建築CAD検定2級 79%（◎） 19名受験15名合格 ・測量士補 14%（△） 80名受験11名合格 ・2級土木施工管理技士補 54%（△） 61名受験33名合格 ・第三種電気主任技術者（上期）2名（○） 〔上期・全国高校生合格者ランキング第6位〕 ・第一種電気工事士 64%（○） 55名受験35名合格 〔上期・下期総合全国高校生合格者ランキング第3位〕 ・第二種電気工事士 60%（△） 134名受験81名合格 〔上期・下期総合全国高校生合格者ランキング第5位〕 ・基本情報技術者 5名合格（○） ・ITパスポート 10名（△） ・危険物取扱者乙種4類 34%（○） 59名受験20名合格

府立都島工業高等学校

4 学 校 の 組 織 力 向 上	(1) 6学科を有し、進学にも就職にも強みのある本校の魅力を積極的に対外的に発信する。	(1) 学校ホームページ、体験入学、学校説明会、公開授業、出前授業、文化祭等で中学生はもちろんのこと広く大阪府民に本校の魅力を発信し工業高校のよさを理解してもらうとともに、志願者増に繋げる。また、国内外からの学校視察を積極的に受け入れ、本校の魅力を積極的に発信する。	(1) ・学校ホームページを年間 150 回以上更新し、日々の学校の取組みを伝える [191 回] ・文化祭に 3,000 人以上の一般の方に入場してもらい、本校生徒の様々な教育活動の成果を広める [3,581 名] ・国内外の学校等による本校への視察を3 回以上受け入れる [新規]	(1) ・377 回更新 (◎) ・文化祭来場者数 3408 人 (◎) ・「人工知能工業高校」・「漢陽工業高校」・「永登浦工業高校」の3校を受け入れた。(○)
	(2) 将来計画員会を通じて総合募集をはじめ、さらなる魅力化について検討を進める	(2) 将来計画委員会を定期的に開催し、府教育庁とも情報交換をしながら、総合募集を見据えた本校のさらなる魅力化について検討を進める	(2) ・他府県の総合募集制導入校を2 回以上訪問し情報収集を行う [2 回] ・魅力化を検討するうえで中学生のニーズを把握するため、中学校との情報交換の場を年3 回以上設定する [3 回]	(2) ・静岡県立浜松工業高等学校と奈良県立御所実業高等学校を訪問し、総合募集性のメリット・デメリットについての情報収集を行った (○) ・中学校教員対象の進学懇談会を2 回実施した。また、府下の中学校管理職との中学生のニーズについての情報交換を5 回行った (○)
	(3) 本校独自の教育コミュニティを構築し、学校力向上に向けた環境整備をはかる	(3) 本校同窓会「一般社団法人浪速工業会」や外部団体との連携による「教員のための技術講習会」を行う。また、教員間の学習会・授業見学を積極的に行い、意見交換を通じて自己研鑽に努める	(3) ・各学科で年1 回、本校の施設・設備を活用した教員のための技術講習会を開催する [6 学科中3 学科で開催] ・教員間による授業参観期間を設定し、他教科の授業を参観し意見交換することにより教員としての見識を広める [新規]	(3) ・4 学科で技術講習会を実施した (○) 機械科 5 軸MC についての講習会を実施した。 機械電気科 3 D プリンター活用講習会を実施した 建築科 「鉄筋加工」の講習会を実施した 都市工学科 一面せん断試験機技術講習会を実施した ・教員間の授業参観期間を年2 回実施した (○)
	(4) 教職員の働き方改革を推進する	(4) 教職員一人ひとりが校務に対する取り組み方について見直すとともに、「学校部活動に係る活動方針」を遵守する。また、毎週1 回の全校一斉退庁日を設定するとともに、毎月2 回の定時退庁日を各自で設定するなど、教職員一人ひとりが時間外在校時間の縮減に努める	(4) 時間外在校時間月平均 80 時間以上の職員を 10% 以下にする [3.0%]	(4) 時間外在校時間月平均 80 時間以上の職員 4.6% (◎)